様式第１号（第１０条関係）

２０２４年度業務実績報告書

提出日令和 7 年 1 月 10 日

１．職名・氏名　助教　坂部敬子

２．学位　　学位　修士　、専門分野　看護学　、授与機関　福井県立大学大学院看護福祉学研究科修士課程　、授与年　平成 26 年 3 月

３．教育活動

⑴講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 公衆衛生看護学実習Ⅰ（2 単位）：4 年生
②内容・ねらい 地域の特性と健康問題・課題について地域診断を通して理解する。 保健所実習において保健所の役割と機能、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 臨地実習前の学内実習においては、保健所管内の健康課題に基づいた公衆衛生看護活動を理解した上で実習に臨むことができるように努めた。その際、疑問やさらに理解を深めたいと思う内容を整理させ、実習で自主的に学ぶことが出来るように整えた。 保健所実習においては、実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導者と十分な話し合いを行った。特に、保健師の専門性は事業の実施までに行う健康課題の把握と事業の企画立案にあるため、実習では見えない部分が理解できるような説明を依頼した。また、直前の学内実習の段階で学生の理解が不十分な内容については、実習開始後に実習計画に追加していただくよう指導者に依頼した。学生指導においては、見学・体験と講義での学びとがつながるように努めた。さらに学生が主体的に学ぶことが出来るよう、実習指導者とコミュニケーションをとりよい関係性を構築することを勧めた。実習期間中は、看護職者としてだけでなく、社会人としても主体的で責任ある行動がとれるよう助言した。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 公衆衛生看護学実習Ⅱ（3 単位）：4 年生
②内容・ねらい 市町を単位として受け持ち、個人・家族・特定集団・地域全体を視野に置いた公衆衛生看護活動を展開するために必要な能力を養う。地域の健康課題に対する公衆衛生看護活動の展開方法と公衆衛生看護の役割と専門性について学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公衆衛生看護学実習Ⅰ同様、市町実習の実習目標が達成できるよう実習計画作成時に実習指導者と十分な話し合いを行った。連絡調整や企画立案といった見学・体験できない保健師の仕事については、可能な限り体験させてもらえるようにした。例えば、フレイルサポーターなどの地域住民が運営する健康教室については、フレイルサポーター対象の事前説明会と健康教室とに参加させてもらい、住民との協働とその必要性についても学ぶことが出来るようにした。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 公衆衛生看護技術Ⅰ（地域診断）（1 単位）：3 年生
②内容・ねらい 公衆衛生看護活動の展開に必要な地域診断について演習を通して知識・技術を習得し、理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　授業では、既存の衛生統計資料や保健医療に関する資料等を図表化・分析する知識・技術について助言し、4年次の公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地域診断につながる学習となるよう努める。また、グループワークでは、学生が興味や関心を持って実習する市町を理解することが出来るようにする。図表作成や分析に時間がかかる学生などには、丁寧に個別指導を行う。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　公衆衛生看護技術Ⅱ（個人・家族）（1 単位）：3 年生　　※科目の主担当

②内容・ねらい
　乳児家庭訪問における個人・家族支援の過程と実際、支援に必要な知識・技術と方法を理解する。
　幼児健康診査の問診・指導場面における発育・発達のアセスメント、保健指導に必要な知識・技術と方法を理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　乳児家庭訪問の事例を通して家庭訪問の流れと家庭訪問に必要な知識・技術について学習し、実習で見学する家庭訪問場面で学びを深めることができるようにする。今年度も実習では、ほぼ全員の学生が同行訪問を体験できたため、演習では次年度に履修する実習での同行訪問の際に十分な学びができるよう準備状態を整える。
　乳児家庭訪問および幼児健診の事例は、国家試験の問題傾向も見ながら見直していく。
　学生が個人ワークした回答を発表して共有し教員が補足説明を行うようにした結果、学生は積極的に発表し視野を広げることが出来たと考える。一昨年度、個人ワークに時間差があり授業の終盤に駆け足となった点については、自宅で学習する時間を確保できるように演習の日程を組んだことで改善できた。
　次年度の実習をふまえて、グループメンバーの関係づくりへの支援も行っていく。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　公衆衛生看護技術Ⅲ（集団・組織）（1 単位）：3 年生　　※科目の主担当

②内容・ねらい
　集団を対象とした健康教育を企画するために必要な技術を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　演習と次年度の実習とを連動させるため、演習開始までに実習施設と十分話し合い、次年度の実習で学生が行う健康教育の対象・事業・場を決定する。
　演習では、まず各自が健康教育の対象・場の理解、健康課題の把握をした後、グループワークを実施し、グループで一つの健康課題を決定する。グループ間のコミュニケーションが円滑に進むよう見守りながら、グループワークが充実するように助言していく。
　さらに、演習で行ったことが、実習では見えにくい事業の企画立案の部分であり、保健師の専門性であることを指導する。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　卒業研究（3 単位）：4 年生

②内容・ねらい
　科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　研究発表までの一連の過程を指導した。
　指導の際は、今後、学生が研究に取り組む際に必要な基礎的な能力が身につくよう指導した。特に、倫理的配慮・倫理審査に関して説明・指導を丁寧に行った。また、今後、就職先で実際に研究を行う場合の進め方が具体的に理解できるような説明を加えた。
　学生が意欲的かつ主体的に進められるよう、必要な時期に必要な助言を行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
　政策形成過程演習（1 単位）：3 年生

②内容・ねらい
　地域の健康課題から、健康課題解決の施策の検討、事業化の必要性を検討し、施策・事業計画を立案する知識・技術を身につける。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
　演習する環境を整えることに努めた。
　学生が立案した事業計画の発表に対して助言する際は、地域の人々の暮らしや行動、事業目標の到達の難しさの実際も伝え、考えた企画の改善案を考える意欲が持てるように努めた。さらに、改善案を考えるためのヒントになるよう助言した。

(2)その他の教育活動

内容
・福井歯科専門学校 歯科衛生士科 非常勤講師
　衛生学・公衆衛生学①（1 年生）：2 コマ（180 分）×7 回、試験問題作成および採点
　衛生学・公衆衛生学②（3 年生）：2 コマ（180 分）×6 回、試験問題作成

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）

【　本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

④学会発表等（ポスター発表）

1）地域で生活する高齢者の外出控えの現状と関連する要因. 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会（2024年1月）、中谷芳美、坂部敬子.

【1件】

⑤その他の公表実績

【　冊】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

・R5～R8年度 科研費基盤研究C（研究題目：行動科学を活用する睡眠マネジメントプログラムの開発、申請代表小島）における研究協力者

(3)特許等取得

(4)学会活動等

5．地域・社会貢献活動

・R6 年度開放講義（模擬授業）：看護・福祉の対象を理解するー情報収集～アセスメントー、丹生高校（12.12）

・令和 6 年度 市町保健師研究協議会 新任保健師研修会（講師）：講演 120 分　テーマ「個別事例を地域の健康課題につなげる」（7.25）（福井県国民健康保険団体連合会事務局）

・永平寺町睡眠改善プログラムにおける睡眠指導
　指導実施者数：（第 1 ターム）1 名、（第 2 ターム）2 名、（第 3 ターム）2 名

6．大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

・看護学科 4 年副担任
・看護学科実習検討委員会委員

(3)学内行事への参加

【研修会】
・情報セキュリティー研修会（9.12）
※科研費セミナー（7.10）は実習のため欠席

【入試関連】
・入試説明会（12.19）

【全学ミーティング】
・全学ミーティング 2 回目（10.9）
※1 回目は実習のため欠席

(4)その他、自発的活動など